

世界資源株ファンドの直近の運用状況について

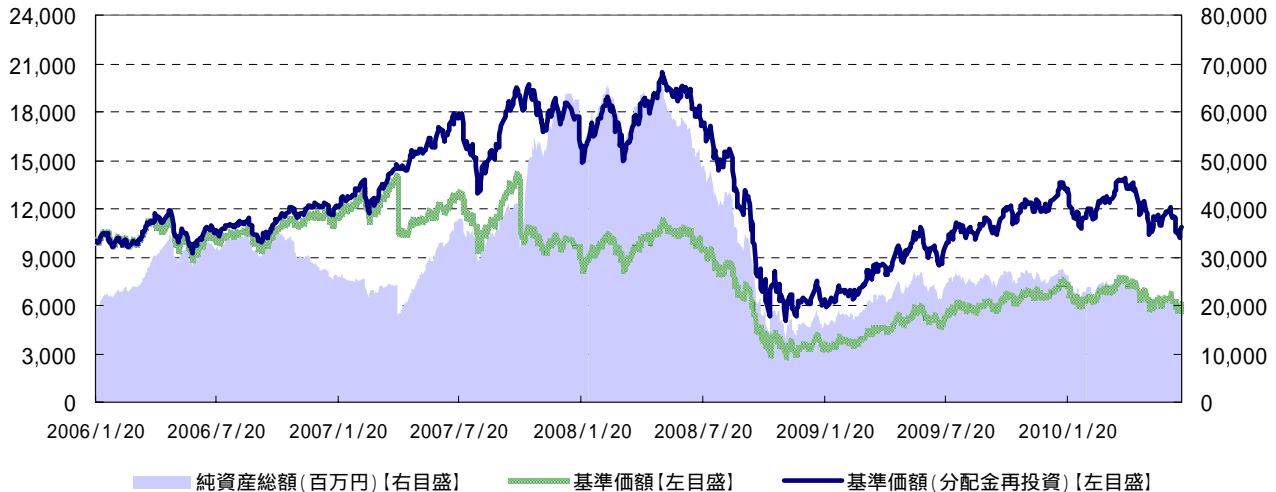
追加型投信/海外/株式

直近の運用状況について

世界資源株ファンドの基準価額は足元、大きく下落しました。海外株式市況および資源市況が下落したことに加え、外国為替市場において円高が進行したことが主な要因です。以下に基準価額下落の背景となりました市況動向等ならびに今後の見通しと運用方針につきご報告させていただきます。

【基準価額の推移】

(期間: 2006年1月20日 ~ 2010年7月9日)



- ・基準価額、基準価額(分配金再投資)は設定日を10,000として指数化しています。
- ・基準価額および基準価額(分配金再投資)は、信託報酬(純資産総額に対し、年率1.974%(税抜1.88%))控除後の値です。
- ・基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

上記グラフは過去の実績・状況であり、将来の運用状況・成果等を示唆・保証するものではありません。

ファンドマネジャーコメント

(基準価額下落の背景となった市況動向等)

直近の海外株式市況下落の要因としては、欧州の財政懸念が依然として払拭されないなか、6月の米消費者信頼感指数の予想以上の悪化などを受けてグローバルに景気回復の不透明感が高まったことがあげられます。また、金融引き締め政策などを背景に中国経済の減速懸念が強まっており、先行きの資源需要減退につながるとの見方から原油や銅などの商品市況が下落する展開となりました。このような市況の影響を受け、当ファンドで組入比率の高い「エクストラータ」や「リオ・ティント」などを中心に資源関連銘柄が総じて下落しました。

また外国為替市場でも、投資家のリスク回避的な動きが強まったことから、円は豪ドルなどに対して円高となりました。

(今後の見通しおよび運用方針)

資源関連の株式市況については、欧州財政問題やグローバルな景気の減速感などのマクロ要因から当面は心理的な下押し圧力を受けやすい展開が続く可能性があります。

しかしながら、新興国の経済成長に伴う旺盛な資源需要を背景に、資源関連企業が生産拡張に向かう姿勢に変化は見られないことから、資源株市況の中期的な投資環境は良好と考えます。特に中国やインド、ブラジルなどのインフラ投資拡大や所得水準向上などが資源需要拡大のドライバーとなり、資源関連企業の持続的な利益成長を支えると見ています。

当ファンドは引き続き、財務基盤が堅固で収益性が安定している大型銘柄中心の運用を継続しつつ、高い収益成長と積極的なバランスシート改善の取り組みを評価し得る銘柄の組み入れを通じて、投資環境の改善に備える方針です。

当ファンドの基本的な運用方針に変更はありません。市況動向等に十分注意を払い、引き続きファンドのコンセプトに沿った運用を継続していく方針です。

コメントは作成時点のものであり将来予告なく変更されることがあります。

上記は、将来の市場環境の変化または運用成果等を保障するものではありません。なお、市況の変動等により方針通りの運用が行われない場合があります。表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しております。

後記の「当資料のご利用にあたっての注意事項等」をご覧ください。

世界資源株ファンド

ファンドの特色

- ・主として、世界各国(除く日本)の資源関連の株式等へ投資することにより、信託財産の中長期的な成長をめざします。
- ・当ファンドの運用は「ファミリーファンド方式」により行い、「世界資源株マザーファンド受益証券」への投資を通じて、世界各国(除く日本)の資源関連の株式等への実質的な投資を行います。このほか、当ファンドで直接投資を行う場合があります。
- ・実質的な組入外貨建資産については、原則として、為替ヘッジを行いません。
- ・マザーファンドの運用にあたっては、世界資源関連株式運用に実績のある、コロニアル・ファーストステート・アセットマネジメント(オーストラリア)リミテッドが担当します。

商品概要

信託期間	: 2006年1月20日から2015年10月19日まで ただし、ファンドの残存口数が30億口を下回った場合等には、信託期間の途中で信託を終了させることがあります。
決算日	: 原則として、毎年4・10月の19日(休業日の場合は翌営業日)
参考指数1	: H S B Cグローバル・マイニング・インデックス(円換算ベース)
参考指数2	: M S C Iワールドエナジーインデックス(円換算ベース)
お買付け申込み・中途換金	: いつでもお買付申込み、換金のお申込みができます。ただし、シドニーの銀行の休業日に該当する日については、お買付・中途換金のお申込みができません。
申込価額	: 申込受付日の翌営業日の基準価額

【お客さまには以下の費用をご負担いただきます。】

申込時に直接ご負担いただく費用	
申込手数料	: 申込価額×3.15%(税抜3%)を上限として販売会社が定める手数料率
換金時に直接ご負担いただく費用	
信託財産留保額	: 換金申込日の翌営業日の基準価額に0.3%を乗じた額
保有期間中に間接的にご負担いただく費用	
信託報酬	: 純資産総額に対して、年率1.974%(税抜1.88%)
その他費用(*)	: 売買委託手数料、監査報酬、組入資産の保管等に要する諸費用、先物取引・オプション取引等に要する費用等

(*)「その他費用」については、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を表示することができません。

なお、お客さまにご負担いただく費用等の合計額については、お申込金額や保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。
(課税関係)個人受益者については、分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の価額から取得費を控除した利益に対して課税されます。
なお、法人の課税は異なります。また、税法が改正された場合等には、変更となることがあります。
詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

【お申込不可日について】2010年の該当日は1月26日、4月2日、4月5日、4月26日、6月14日、8月2日、10月4日、12月27日、12月28日です。なお、休業日は変更される場合があります。

当資料のご利用にあたっての注意事項等

当ファンドは、主に株式を実質的な投資対象としますので、株式市場の相場変動により組入株式の価格が下落すること、組入株式の発行者の倒産や財務状況の悪化等の影響により組入株式の価格が下落すること等で当ファンドの基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、実質的に外貨建資産に投資しますので、為替の変動により損失を被ることがあります。したがって、投資家のみなさまの投資元金が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。当ファンドの主な投資リスクとして、組入株式の価格変動リスクや為替変動リスク、信用リスク、流動性リスク、カントリーリスク等があります。詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)の「基本情報 リスク」をご覧ください。

投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、貯金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。/金融商品取引業者以外の金融機関は、投資者保護基金に加入していません。/投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。/投資信託の取得のお申込みを行う場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。/投資信託は、書面による契約の解除(クーリング・オフ)の適用はありません。/運用により信託財産に生じた損益はすべて投資家のみなさまに帰属します。

当資料は、当ファンドの運用状況をお知らせするために三菱UFJ投信が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。/当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。/当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。/当資料中のグラフ・数値等は、過去の実績・状況であり、将来の市場環境等や運用成果等を示唆・保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮していませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。

市況動向および資金動向等により、ファンドの基本方針通りの運用が行えない場合があります。

(お申込みの際には、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。)

設定・運用 ... 三菱UFJ投信株式会社
 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号
 加入協会 (社)投資信託協会
 (社)日本証券投資顧問業協会

<お客様専用フリーダイヤル> 0120-151034 (毎営業日の9:00~17:00)
 <オフィシャルサイト> <http://www.am.mufg.jp/>
 基準価額・分配金をメール配信 <http://k.m-muam.jp/a/1/3>
 (*メール配信対象外ファンドもあります。)



世界資源株ファンド

当ファンドにかかるリスクについて

当ファンドへの投資にあたっては、主に以下のリスクを伴います。このため、お申込みの際は、当ファンドのリスクを認識・検討し、慎重に投資のご判断を行っていただく必要があります。

<p>市場リスク</p>	<p>(価格変動リスク) 当ファンドは、株式を実質的な主要投資対象としており、株式の投資に係る価格変動リスクを伴います。一般に、株式の価格は個々の企業の活動や業績、市場・経済の状況等を反映して変動するため、当ファンドはその影響を受け株式の価格が下落した場合には基準価額の下落により損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。</p> <p>(為替変動リスク) 実質的な主要投資対象である海外の株式は外貨建資産ですので、為替変動の影響を受けます。そのため、為替相場が円高方向に進んだ場合には、基準価額の下落により損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。</p>
<p>信用リスク</p>	<p>信用リスクとは、有価証券等の発行者や取引先等の経営・財務状況が悪化した場合またはそれが予想された場合もしくはこれらに関する外部評価の悪化があった場合等に、当該有価証券等の価格が下落することやその価値がなくなること、または利払いや償還金の支払いが滞る等の債務が不履行となること等をいいます。当ファンドは、信用リスクを伴い、その影響を受けますので、基準価額の下落により損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。</p>
<p>流動性リスク</p>	<p>有価証券等を売却あるいは取得しようとする際に、市場に十分な需要や供給がない場合や取引規制等により十分な流動性の下での取引を行えない、または取引が不可能となるリスクのことを流動性リスクといい、当ファンドはそのリスクを伴います。例えば、組み入れている株式の売却を十分な流動性の下で行えないときは、市場実勢から期待される価格で売却できない可能性があります。この場合、基準価額の下落により損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。</p>
<p>カントリーリスク</p>	<p>新興国への投資は、先進国への投資を行う場合に比べ、投資対象国におけるクーデターや重大な政治体制の変更、資産凍結を含む重大な規制の導入、政府のデフォルト等の発生による影響を受けることにより、市場・信用・流動性の各リスクが大きくなる可能性があります。この場合、基準価額の下落により損失を被り、投資元金を割り込む可能性が高まる場合があります。</p>
<p>留意事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・当ファンドは、一定の運用成果を保証するものではありません。 ・当ファンドは、ファミリーファンド方式により運用を行います。そのため、当ファンドが投資対象とするマザーファンドを共有する他のベビーファンドの追加設定・解約によってマザーファンドに売買が生じた場合などには、当ファンドの基準価額に影響する場合があります。 ・当ファンドは、実質的に特定のテーマ・業種に絞って投資を行いますので、これらの動向によっては、株式市場全体の動きと当ファンドの基準価額の動きが大きく異なる場合があります。

